

【質問項目】

1. 清華大学との交流について
2. 鹿児島在住経験者とのネットワーク構築について

【質問本文】

1. 清華大学との交流について

■ 質問（しもづる）

私からは、人的ネットワークづくりという点から二点伺いたいと思っております。

一点目は、清華大学への留学生の今後の見通しについてです。

人脈をつくっていくという上では、短期的な留学もいいんですけども、やはり何年か一緒に机を並べて勉強することによって、将来、中国のエリートになるであろう清華大学の学生さんとの人脈をつくっていく、これは非常に重要だと思っています。その中で、ことしはたしか短期の語学留学で鹿児島から行くということなんですが、語学留学だけでは、どうしても語学留学やるというのはよその国から来ている人が多いので、また短期が多いのでなかなか人脈づくりという点ではもうちょっと中長期的な留学のほうが望ましいと思うんですね。

それで、将来的に鹿児島から清華大学に出す学生を、中長期的にどういう目的で、どういうゴールを目指して出していくのかなというところのその見通しをちょっと教えてください。

□ 答弁（国際交流課長）

今、下鶴委員のほうからございました清華大学への留学についての今後の見通しでございます。

今年度、事業の初年度ということで、まずは入りやすい語学留学、短期、約五カ月間ということになりますけれども、そういうものについて清華大学のほうと調整をいたしまして、今回三名派遣するということになりました。ただ、最初に青少年の交流でも申し上げたとおり、将来のそういう人的ネットワークをつくるという意味では、御指摘のとおり中長期の留学というものも考えていかなければならないのかなとは思っております。

ただ、清華大学が御説明の中で申しましたとおり、中国のトップレベルの大学ということになります。そこに語学留学以外の例えば専門の理工学部の分野とか、そういう分野での入学ということになりますと、一定の試験というものも生じますし、また、授業を受けるだけの語学力というものも必要になってまいりますので、それに適応できる学生さんがいないといけないということになってきます。

まず、語学留学でこのような形で進めることによりまして中国に対する関心を鹿児島県内でも高め、中国語の勉強をされる方がふえ、そして、そういう中でそういう専門の部分での留学、それが中長期とこの留学になるかもしれません。そういう形でそういうものも見通しながら、今後、取り組んでまいりたいというふうに考えております。

■ 質問（しもづる）

ありがとうございます。

ことは初年度ということで、まずは道を開くということからスタートするかと思いますが、お答えでもありましたように、鹿児島県の学生さんたちに清華大学に行くという選択肢もあるんだよというところの啓発から、あともう一つは、いきなり高校生から学部段階で行くというのはなかなか、中国語の習得等々でハードルも高いかと思いますが、例えば大学院とか、人文科学系の大学院等々はまだ入りやすいと思うんですね。特に、法文系のそういうところで人脈をつくっていけば、将来、中国のトップ層になる、エリート層になる人たちと人的なネットワークを構築するという点では、そういうところも検討されればいいのかと思いますので、ぜひ御検討いただきたいなと思っております。

2. 鹿児島在住経験者とのネットワーク構築について

■ 質問（しもづる）

もう一点は、かごしまクラブ等々の、鹿児島県に関して来てくださった方等々の人的ネットワークの構築について伺いたいと思います。

先ほど、アジアかごしまクラブについては、香港、シンガポール、全羅北道、三カ所で活動されているという御説明がありましたけれども、それ以外の場所について、それぞれ鹿児島に留学で来られた、何かの研修で来られた等々の人的ネットワークの構築についてどのような取り組みをしているのかということをお伺いしたいと思います。

といいますのが、二点ありまして、一つは、たしか近年留学で来られている方々、多くが中国東北部出身の方が多いということが一点、もう一つは、今やっている外国青年招致というのは、たしか四人で二千万か二千二、三百万出ているということは、一人当たり五、六百万出ているという、結構なお金を使っている事業であると。じゃあ、そういうところに来てくださった方々を帰った後、ネットワークが途切れてしまうというのは非常にもったいない話だなと思うんですね。

そこで、この三カ所のアジアかごしまクラブでの活動はわかりましたが、それ以外のところにおける、鹿児島にゆかりがある外国の方々とのネットワークづくり、ネットワークのつなぎとめですね、これについてどのような取り組みをされているか教えてください。

□ 答弁（国際交流課長）

鹿児島に来ていただいている留学生の方々、アジアかごしまクラブ等がある地域以外からも、特に中国については本当に多くの方が来ていただいているところです。その方々とのネットワークということだと思います。中国に限らずということかもしれませんが、

例えば、一つの例で申し上げますと、十五ページに、私費外国人留学生奨学金給付事業というものがございます。年間十名ということで、人数的に大変多いということではないんですけども、この奨学金を給付する留学生の方々には、鹿児島県から県の情報をメールで配信する多言語メールマガジンというのをやっておりますけれども、そのようなメールマガジンへの登録ということを必ずお願いしており

ます。

そのような形で鹿児島県との関係、一回登録をしていただくとその後もメール配信がアドレスが変わらない限りは配信ができますので、情報提供をさせていただいているというような取り組みがございます。

以上です。

■ 質問（しもづる）

今、私費外国人留学生奨学金給付事業の対象の方には多言語メールマガジンでの情報提供をやっているという御説明がありました。

そこで、これは意見といいますか、提案なんですけど、例えば、自分たちがそれぞれ、外国に行ったことはないの、同窓会とかいろいろなそういうネットワークと自分がどうつながっていくかということ考えたときに、一つは今おっしゃられた刊行物、メールマガジンにせよ、本にせよ、刊行物が定期的に届くことによってつながりを意識するというのがあるかと思いますが、もう一つは、例えば定期的に、どこの同窓会もやっているかと思いますが、年一回集まるなり、定期的集まりというものを通じてやはりそのつながりというのを認識するというのがあるのではないかなと思います。

なので、例えば、今後、中国東北部からの留学生がふえていって、そちらに帰っていくということが多くなるのであれば、例えばそこで年一回、茶飲み話でもいいですし、そういうことを開催されるだとか、そういうところを検討していただきたいなど。

もう一つは、今、刊行物に関して、多言語メールマガジンも留学生給付金事業の対象の方に配信しているとありましたけれども、ぜひ、鹿児島にゆかりがあって来られて帰られた方全般に対してぜひそういう取り組みをやっていただきたいなと思います。

以上です。

□ 答弁（国際交流課長）

済みません、ちょっと補足しまして、今、十人という枠の私費外国人留学生奨学金給付金の対象者へのメールマガジンの登録の話をしましたけれども、例えば、各大学の留学生会等へ私ども出席をする機会がございます。そういう場合にこのような多言語のメールマガジンがあるので登録をしませんかというようなお話はしているところでございますので、それでまた広げていきたいと思っております。

■ 質問（しもづる）

ありがとうございます。

ぜひ、このメールマガジン、すごく僕はいいツールだと思っているんですね。というのが、国に帰られた後、引っ越しとか等々あると住所というものの把握というのはなかなか難しくなってくると思うんですね。一々届け出を出してくれればいいんですが、なかなかそうもいかないでしょうから。ところが、メールマガジンの場合は、メールは変わらない場合もありますし、また変わったとしても登録変更をすぐにできると、向こう側から。なので、このメールマガジンというのをもっとぜひ登録を促進するように取り組んでいただければなと思います。

以上です。